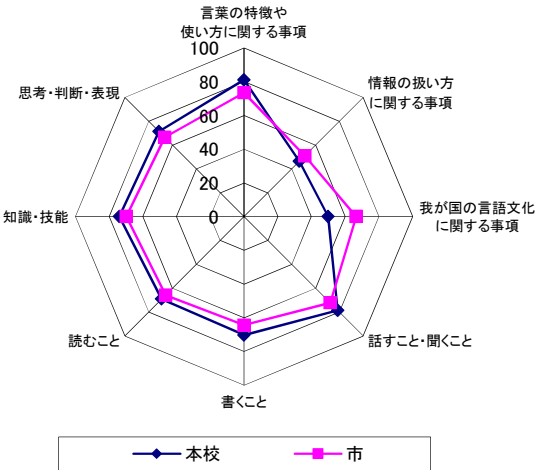


宇都宮市立城山西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.2	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	46.4	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	78.6	72.3	73.7
	書くこと	70.2	64.3	66.6
	読むこと	69.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	74.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	71.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

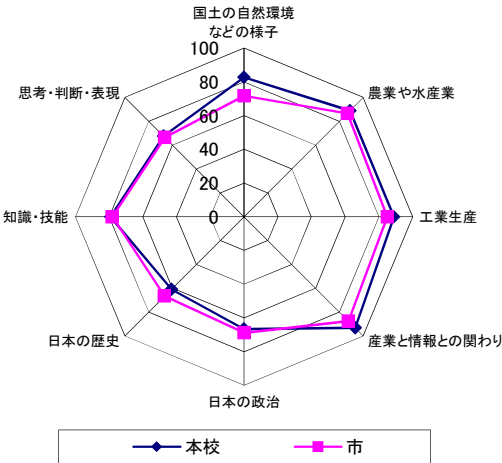
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	本領域の正答率は81.2%で、市平均を上回った。 ○漢字の書くことのすべて設問において正答率が市平均を上回った。言葉の学習では、文と文の接続の関係をとてもよく理解し、市平均を非常に大きく上回った。 ●文脈に沿った敬語の使い方が正しい文を選ぶ設問において、正答率が市平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・敬語の正しい使い方が定着していないので、授業の中でも正しい言葉遣いを意識させていきたい。 ・漢字の読み書きについては、宿題等で繰り返し復習したり、朝の学習等を活用したりして、定着を図っていく。
情報の扱い方 に関する事項	本領域の正答率は46.4%で、市平均をやや下回った。 ○説明文において、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問において、正答率が市平均と同程度だった。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問において、市平均を下回った。	・情報と情報の関係について考え、読み取った情報を理解し、目的に応じて表現する力の正答率が低いことから、国語科や他教科の中で、新聞をはじめとするいろいろな情報に触れたり、その情報を相手に発信したりする機会を積極的に設けていきたい。
我が国の言語文化 に関する事項	本領域の正答率は50%で、市平均を大きく下回った。 ●語句の由来に関心を持ち、和語、漢語、外来語について理解しているかを問う唯一の設問であった。	・朝の読書指導や読書週間などを通して、幅広い内容の本に触れる機会を多く作り、日本の文化関心を深めさせていきたい。 ・和語・漢語・外来語の由来や我が国の言語文化に関する事項について、補充プリント等を活用して習熟していく。
話すこと・聞くこと	本領域の正答率は78.6%で、市平均を上回った。 ○インタビューの内容を捉え、意図に応じて質問を工夫しているかを問う設問における正答率が、市平均を上回った。	・国語の授業のみならず、他教科における話合いや学級活動の話合いの活動の中で、話の内容を的確に捉え、自分の意見を発言できるように話合いの方法を身に付けさせていく。
書くこと	本領域の正答率は70.2%で、市平均を上回った。 ○指定された条件で文章を書く設問では1問を除き市平均を上回った。 ●目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する設問では市平均を下回った。	・国語科や他教科、特に総合的な学習の時間等で様々な情報に触れ、読み取った情報を、相手に分かるように目的に応じて文章にまとめる活動を今後も取り入れていきたい。 ・決められた条件の中で自分の考えと理由を明確にして文章化する活動に取り組ませたり、賛成しない意見に反論する文章を書いたりする機会を、意図的に作っていく。
読むこと	本領域の正答率は69%で、市平均をやや上回った。 ○物語の登場人物の心情について、描写を基に捉える設問において、市平均を大きく上回った。 ●叙述を基に説明文の内容を読み取る設問において市平均を大きく下回った。	・説明文の読み取りにあたっては、日常の学習の中で、序論・本論・結論の三つのまとまりに気付かせ、事実と感想、意見などの関係を押さえて、要旨を把握させ筋道を立てて考える力を育てていきたい。 ・物語文の読解の授業において、本文の中で登場人物の心情や行動が表れている文に線を引きながら読んだり、そのときの心情を話し合ったりする活動を引き続き取り入れる。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	82.7	71.6	69.6
	農業や水産業	88.9	86.7	83.7
	工業生産	88.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	93.3	87.7	77.4
	日本の政治	66.7	68.9	71.7
	日本の歴史	60.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.2	78.0	76.7
	思考・判断・表現	67.5	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

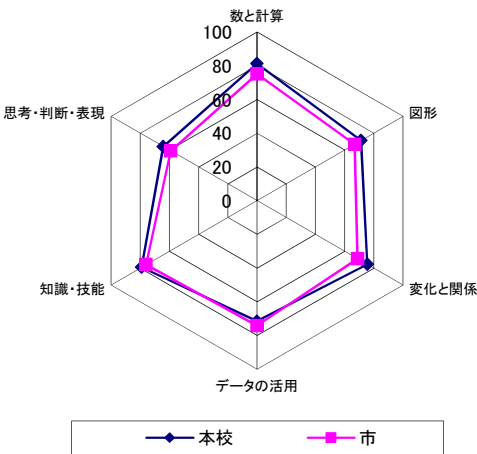
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の正答率は82.7%で、市平均を大きく上回った。 ○オーストラリアの位置と国旗、日本の主な地形の名称についての設問において、市平均を大きく上回った。 ●国内の林業が抱える課題について、考えを表現する設問において、市平均は大きく上回ってはいるものの、正答率が46.7%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な知識は概ね定着しているため、様々な資料から読み取れる情報を把握し、適切にまとめたり、自分が選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 ・他教科の学習において、つながりの深い学習内容と関連させて学習を進める。
農業や水産業	本領域の正答率は88.9%で、市平均をやや上回った。 ○米の生産の工程についての設問において、市平均を大きく上回った。 ●水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する設問において、市平均を下回った。	・我が国の農業や水産業における食糧生産について、身近な出来事や事柄から学習設問を見出し、追究・解決する学習を通して、我が国の課題を知り、課題解決に向けて主体的に考えをまとめられるようにする。
工業生産	本領域の正答率は88.9%で、市平均をやや上回った。 ○工業製品の分類についての設問において、市平均を上回った。 ●自動車の製造工程についての設問において、市平均をやや下回った。	・資料を活用する際は、関連する要素やその分布などに着目できるように、視点を与えて資料提示し、それらを関連付けて考えたり表現したりする活動を行う。
産業と情報との関わり	本領域の正答率は93.3%で、市平均を大きく上回った。 ○さまざまなメディアの特徴についての設問において、市平均を非常に大きく上回った。	・今後も、自らの体験を想起させ、学習内容と関連付けける活動を設定しながら、情報リテラシー教育の充実を図り、児童が情報を正しく選択したり判断したりできるようにしていく。
日本の政治	本領域の正答率は66.7%で、市平均をやや下回った。 ○国民と国会の内閣の関係についての理解をもとに、図を読み取る設問において、市平均を上回った。 ●内閣の働きについての設問において、市平均を大きく下回った。	・我が国の政治の考え方や仕組みや働きについて基礎的事項の十分な理解を図るとともに、社会的事象について、児童会や学校などの身近な組織の仕組みや働きに置き換えて考えられるよう働きかけていく。 ・授業において、政治に関するニュースを取り上げ、その特色や意味を多角的に考える機会を設けるとともに、自分の考えを説明したり、学級内で議論したりすることで、理解を深めていく。
日本の歴史	本領域の正答率は60.8%で、市平均を下回った。 ○江戸幕府の鎖国の窓口についての設問において、市平均を非常に大きく上回った。 ●源平の戦いの理解をもとに、資料を判断する設問において、市平均を非常に大きく下回った。	・社会的事象を時期や推移などに着目して捉えさせたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすることで、歴史的な見方や考え方を働かせられるようにする。 ・複数の資料を読み取り、適切に判断し、自分の言葉で表現する活動を積み重ねていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.3	75.1	75.8
	図形	71.3	66.8	68.3
	変化と関係	75.6	68.8	65.0
	データの活用	71.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	79.1	76.1	75.8
	思考・判断・表現	64.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

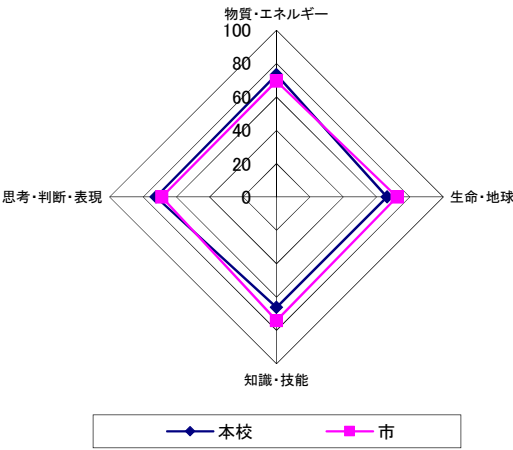
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本領域の正答率は81.3.%で、市平均を上回った。 ○基礎的な計算力を問う多くの設問において、正答率は市平均を上回っていた。特に小数一位数÷小数一位数を計算する設問では、正答率が100%であった。 ●真分数＋真分数＝仮分数で、片方の分母をそろえて通分をする計算ができる設問において、正答率66.7%と市平均を下回った。	・児童の実態に応じて、習熟度別学習や少人数学習での個別指導を、今後も効果的に取り入れて、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・通分、約分などの分数計算において、宿題や朝の学習等を活用して、基礎的な計算の補充プリント等に取り組み、学習の定着を図っていく。
図形	本領域の正答率は71.3%で、市平均をやや上回った。 ○角柱の体積を求めたり、三角形の内角の和が180度であることを理解して外角を求める設問の正答率は、市平均を大きく上回った。 ●直径が与えられた円の面積を求める式を理解している設問の正答率は、市平均を大きく下回った。	・正多角形や合同、体積について問う設問においては正答率が高いことから、今後も補充プリント等を活用して、更なる習熟を図っていく。 ・三角形や円の面積の求め方、底辺と高さの関係、直径と半径の関係など、作図をしたり、様々な問題を解いたりすることで、図形についての理解を深め、学習の定着を図っていく。
変化と関係	本領域の正答率は75.6%で、市平均を上回った。 ○速さと道のりから時間を求める設問の正答率93.3%で、市平均を大きく上回った。 ●市平均は上回っているが、線対称について理解し示された方法で図形を作ることができるか説明している設問や、線対称と点対称について理解し既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選んでいる設問の正答率が低かった。	・習熟度別学習を積極的に活用し、個に応じた指導を取り入れながら習熟を図るとともに、発展的な問題にも取り組み、学習内容の理解を深めていく。 ・正答率が低い線対称や点対称の問題は、宿題等で繰り返し復習したり、朝の学習等を活用して定着を図ったりする。特に、記述の問題については、様々な単元において、自分の言葉で自分の考えを記述する時間を取り、論理的に説明する力を身に付けさせていく。
データの活用	本領域の正答率は71.4%で、市平均をやや下回った。 ○ドットプロットのデーターを度数分布表に表すことができる設問において、正答率は市平均を上回った。 ●最頻値を求めることができる設問では、正答率が市平均を大きく下回った。市平均は上回るが、問題を理解し4日間に走った道のりの平均から2週間に走ると考えられる道のりを求める設問の正答率が低かった。	・問題練習を通して基礎的事項の定着を日常的に図るとともに、発展的・応用的な問題にも取り組ませる機会を設け、単元学習全体の習熟が高められるようにしていく。 ・記述式の設問の正答率が低いことから、様々な出題形式の問題に取り組む機会を設け、出題の条件に合った形で文章で答える経験を多く積ませていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.3	69.5	65.2
	生命・地球	66.3	72.3	70.1
観点別	知識・技能	66.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	72.2	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本領域の正答率は73.3%で、市平均をやや上回った。 ○物の溶け方に関する全ての設問において、市平均を大きく上回った。特に、水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法についての設問において、正答率が73.3%で、市平均を非常に大きく上回った。 ●鉄やアルミニウムは、うすい塩酸にとけることを理解しているに関する設問において、正答率が60%で、市平均を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題作りから計画、実験、まとめといった授業の流れを基本とし、実験の目的やその方法といった課題解決に向け、話し合い活動の充実を目指す。 ・今まで学習してきたことや経験を生かして、どうすればいいのか、どんな結果になりそうかと問いかけを繰り返すこと、見通しをもてるようにしていく。 ・学びのテーマに興味や関心をもてるように授業を設定していく。
生命・地球	本領域の正答率は66.3%で、市平均を下回った。 ○実験の結果から、日によって月の形が変わって見える理由を考察することができるの設問において、正答率が93.3%で、市平均を大きく上回った。 ●肝臓のはたらきについて理解しているの設問において、正答率が46.7%で、市平均を非常に大きく下回った。	・観察や実験を通し、原理現象を理解させるため、図や絵、言葉を用いて記録させるなど、ノート指導を工夫する。視覚的指導を多く取り入れ、イメージをもちやすくする授業を心がける。また、一人一台端末を用いて、学習の要点などをまとめさせ、発表させることで学習の定着を図る。

宇都宮市立城山西小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「聴く」ことの重点的な指導	・児童が自分の考えや分かったこと、疑問に思ったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信しようとする学習活動の工夫をする。 ・「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていく。	・学習意欲が高く、授業に積極的に取り組んでいる。 ・自分の考えを発表することに対して得意だと感じている児童が約6割いる一方で、約3割の児童は苦手意識をもっている。 ・学級は発言しやすい雰囲気があり、話し合い活動も積極的に取り入れられている。 ・市平均と比較して、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると感じている児童は少ない傾向にある。
振り返り活動の充実	・授業者による肯定的なフィードバックの充実を図り、児童の自己効力感を高めていく。 ・単元末や授業の終末における振り返りに対して教師が適切なフィードバックを行い、児童が自己の学習活動や取り組みの成果を俯瞰的に捉えることができるようにする。	・先生は学習のことについてほめてくれると感じている児童が多い。家庭でも同様の傾向が見られる。 ・困難な課題に対して粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。 ・各教科の学習内容が、日常生活や将来の自分の生き方に生かされていくと考えている児童が市平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的な事項が十分定着していない児童が一定数見られた。 ・各教科の学力調査において、応用的なものでのつまずきが見られた。 ・困難な課題に対して粘り強く取り組むことができたと考えている児童や、普段の生活の中で、「不思議だな」と思うことがあるという児童が以前より増加傾向にあった。 ・基本的な生活習慣の定着や、学習に向かう姿勢において、学年間のばらつきが見られた。	・「聴く」ことの重点的な指導 ・中間の振り返りを含めた、振り返り活動の充実	・「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていくよう働きかけていく。 ・授業や単元の途中で「中間の振り返り」を取り入れ、より学習のねらいに到達しやすい環境作りをする。また、中間の振り返りを通して、児童が自他のよさに気付くことができる機会にしていく。